

須賀神社

溝咋遺跡

みぞくい・1995.12.9



(財)大阪府文化財調査研究センター

安

威

川

結川

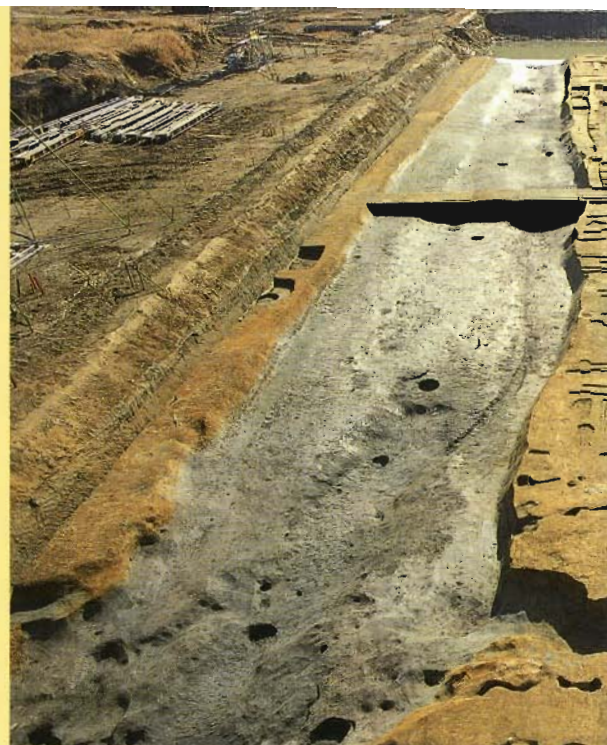
先鉾橋

溝咋神社

昭和20年代に撮影された茨木市学園町周辺の航空写真です。方形の土地区画がよくわかります。発掘調査によって、この土地区画は、少なくとも約800年前の鎌倉時代にまでさかのぼることがわかりました。この土地区画方式を条里制といいます。



◀水路の底から、人間の頭蓋骨がみつかりました。刀傷がみられます。



南無三曼多没駄南□



▲室町時代の小さな板の卒塔婆

南無三曼多没駄南

一佛成道觀見法界
草木國王悉皆成佛

為道春禪定□



▲水路の中に打ち込まれた木の杭。手前には、大きな穴が掘られています。



◀小さな板の卒塔婆は、木の杭に、逆さまにひっかかった状態でみつかりました。

鈴。金が一部残っていることから、
金銅の鈴であったと考えられます。



北から



南から



鎌倉・室町・安土桃山・江戸時代

には、条里制にのった水田がひろがり、南北方向に、幹線の水路がはしります。
奈良・平安時代の水田はみつかりませんが、遺物はみつかります。

▼「奈胎」の墨書がある奈良時代の器。



東から



▲古墳時代後期の土器や滑石製品。
土師器の樽型甕は、珍しいものです。



▲集落と水田は、浅い溝で区画されます。
集落には、地面に掘った穴に柱を立てる
の建物（掘立柱建物）が作られています。



▲砂の上からつきさ
した鋤の跡。

水田のあぜの方向が、鎌倉時代より
新しい水田のあぜの方向とは違って
います。古墳時代には、もとの地形
をいかしてあぜの方向を決め、水田
をつくったと考えられます。





▲古墳時代の河川では、杭列や流
水を調節する堰^{せき}がみつかりました。

方式

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

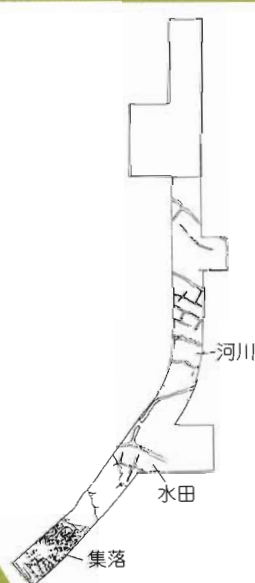
す。

す。

す。

す。

▲水田に近い掘立柱建物の柱穴には、柱が沈まないように木の板が敷かれています。



0 100m

▼水田に残る人の足跡

古墳時代後期

(今から1500年前)

の集落と水田がみつかりました。水田は、洪水砂で埋まっており、集落も同じ時期に人が住まなくなっています。これより、人々は洪水で水田を失ったため、集落を去ったと考えられます。



▲曲物と先端を宝珠状に削り出した木の棒が河川のそばでみつかりました。同地点は、鎌倉～江戸時代の水路の底にあたるため、時代が新しくなる可能性もあります。

東から

掘った足跡を写したり、目にとまったものを
スケッチしたりしてみましょう！



質問????????????????????

Q1 水田と集落の高さは、どのくらい違いますか？

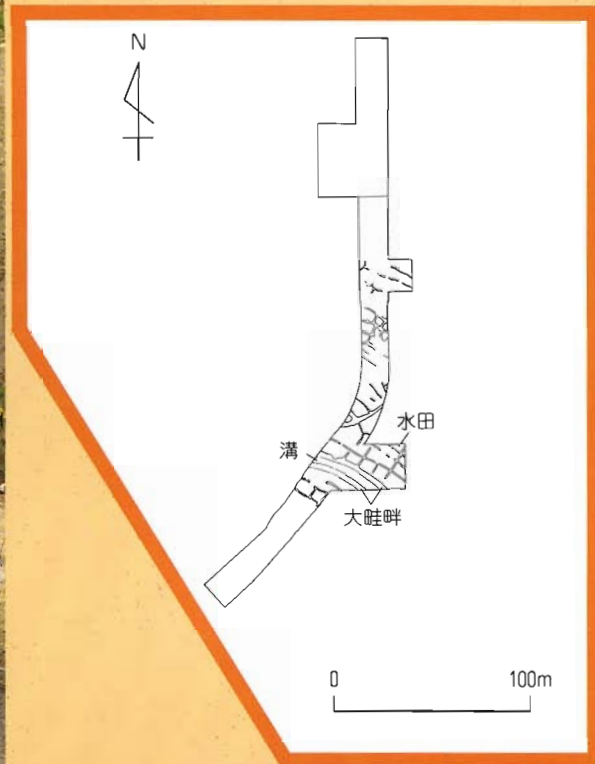
Q2 古墳時代後期の水田を埋めた洪水砂の厚さは厚いところで何cm？

Q3 掘立柱建物の柱の太さは？

現場をみると、答えがわかります！



▲いらなくなったはしごや建築材が、大きなあぜの下に敷かれています。



古墳時代前期

(今から1700年前)

の水田がみつかりました。
水田は、1区画が約4 m
× 8 mの、小さな区画か
らなります。
低いところの大きなあぜ
は、いらなくなった木製
品や雑木を敷き、杭を打
って補強しています。



東から

